

開催場所：大阪御堂筋ビル 地下4F（※展示会場の北隣りのビルです。）

特別セミナーのお申し込みは、専用サイトよりお願い申し上げます。

専用サイトへのログインには、招待状に記載されているID・パスワードが必要となります。

お手元に招待状をご用意の上、ログインしてください。

※各セミナーとも定員になり次第、締め切らせていただきます。

日時	セミナーテーマ/セミナー内容	講師	講師プロフィール
12/4(水) 10:30~12:00	ミラノサローネ2019 デザイントレンド報告 建築士会CPD 認定プログラム 世界のデザイントレンドを牽引するミラノデザインウィーク。 今年のインテリアトレンドの報告です。 ①トレンドスタイル概要について ②CMF(色・素材・仕上)トレンドについて ③キッチン・バスルームのトピックスについて ④その他デザインイベントについて	株式会社LIXIL 宮脇 伸歩	 1984年愛知県立芸術大学インダストリアルデザイン卒業後、伊奈製陶株式会社(現株式会社LIXIL)入社。内装タイル、商品カラーデザインを経て、住宅設備機器、シャワートイレ、SATISの開発に従事。技術統括部空間デザイン研究所所長兼デザインセンター長、総合技術研究所サステナブルデザイン研究室室長、キッチン・洗面事業部商品企画課長を経て、2014年より現職。愛知県立芸術大学非常勤講師。
12/4(水) 14:00~15:30	エンドユーザー視点による ホテルデザイン — 企画・設計・運営のサイクルが生み出す強み — MUJI HOTEL GINZAなどのホテルを国内外で手がけるUDS。世界的にも珍しい企画、設計、運営一体でのホテルづくりに取り組み、それぞれがうまく循環することでユーザーに支持される施設や新しい仕組みを生み出しています。本セミナーではそのデザインのポイントを、設計部門トップとして牽引してきた経験からご紹介します。	UDS株式会社 取締役副社長 中原 典人	 1968年北海道生まれ。1999年に都市デザインシステム入社(現UDS)。コーポラティブハウス、集合住宅、戸建などの住宅をはじめ、ホテル・商業施設・オフィスなど建築分野に止まらず、インテリアデザイン・家具のプロダクト等もトータルで手掛ける。ジャンルにとらわれず、新築からリノベーションまで様々な手法により、独自の空間を幅広いデザインにより表現する。東京建築賞奨励賞・グッドデザイン賞・IF DESIGN AWARD・A' DESIGN AWARDなど受賞多数。
12/5(木) 10:30~12:00	BIMのかたち 建築士会CPD 認定プログラム — Society5.0へつながる建築知 — グローバル化、SDGs開発目標に對する我が国の建築産業は、他分野と互恵関係を結び、新たな価値を創発するエコシステムを構築できるか。建築のつくり方つかい方を刷新しつつあるデジタル・テクノロジーを、私たちはいかに把握すべきか。日本建築学会活動の一環で刊行した書籍「BIMのかたち」の編集から見えた(拡張的BIM)の射程(つくる・働く・学ぶ)を論じたい。	芝浦工業大学 システム理工学部 教授 澤田 英行	 1962年京都府岡岡市生まれ。芝浦工業大学建築学科卒業、同大学院修了後、1987年鹿島建設株式会社建築設計本部入社。生産・住宅・オフィス・教育・文化・医療・TVスタジオなど様々な建築設計に携わる。2012年芝浦工業大学入職。BIM・ICTを活用した建築・地域デザイン、建築協働設計手法の研究、つかい手とつくり手がシンクロする意思決定アプローチの研究、SDGsの開発目標に向けた実践的教育手法の開発に従事。
12/5(木) 14:00~15:30	建築の情報化と環境構築の パラダイム 建築の情報化、デジタル化は単にBIM化、IoT化という言葉で取まらない、根本的なパラダイムシフトをもたらしつつある。その中で業界としてどのような意識、視点で新しい環境構築に挑むべきか、実例を交えながら解説する。	noiz 豊田 啓介	 建築家。東京大学工学部建築学科卒業。1996-2000年安藤忠雄建築研究所。2002年コロンビア大学建築学部修士課程修了(AAD)。2002-2006年ShoP Architects(New York)。2007年より東京と台北をベースに、祭屋と共同でnoizを主宰(2016年より酒井康介もパートナー)。2017年より建築・都市文脈でのテクノロジーベースのコンサルティングプラットフォームgluonを金田充弘、黒田哲二と共同主宰。東京藝術大学芸術情報センター非常勤講師、慶応大学SFC環境情報学部非常勤講師、EXPO OSAKA/KANSAI 2025 誘致会場計画アドバイザーほか。
12/6(金) 10:30~12:00	建築とBuilding Envelopeの 未来を考える 「高齢化」「気候変動」「低炭素社会」「都市部への人口集中」など、未来がかかえる問題とこれからの建築・建設の変化は、外装(Building Envelope)に何をもちたすのだろうか。	ARUP シニア・アソシエイト 松延 晋	 1961年生まれ、1987年東京理科大学修士課程修了、1987年日本板硝子、2005年よりOve Arup & Partners、外装のガラス、ファサード・エンジニアリングで国内外のプロジェクトに従事。2012年版JASS14改訂委員。
12/6(金) 14:00~15:30	森ビルがめざす街づくり — 立体的で・時間軸を意識し・営みにあふれる街へ — アークヒルズ、六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズなど大規模なプロジェクトを手掛ける森ビル。計画にあたってどんな視点、どんなランドデザインを描いて、街づくりに取り組んできたのか。また、今後も取り組んでいくのか。ナンバーワン設計事務所である日建設計とデベロッパー森ビルそれぞれに在籍した経験から、プロジェクトのハードとソフトの部分、プロジェクトの一貫通貫な部分に迫ります。	森ビル株式会社 顧問 本 耕一	 日本大学理工学部建築学科、修士課程修了。1981年日建設計入社。松山商科大学御幸キャンパス、大手前女子短期大学、神戸総合運動公園陸上競技場、成田全日空ホテル、すみだトリフォニーホール(錦糸町駅北口地区第一種市街地再開発)、さいたま新都心合同庁舎など各種ジャンルの設計に従事。株式会社INAX(現株式会社LIXIL)の洗面器・洋風大便器・小便器(グッドデザイン賞受賞)の開発。2002年森ビル入社。「バーティカルガーデンシティ」というランドデザインコンセプトの作成。六本木ヒルズ、表参道ヒルズ、虎ノ門ヒルズなど森ビルの新規プロジェクト全般を計画。